

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社 グループホーム幸		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	047-0045 小樽市清水町20番9号 0 1 3 4 - 2 7 - 2 6 0 0		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年3月29日	評価確定日	平成20年4月7日

【情報提供票より】 (平成20年 3月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 18年 3月 4日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 13人, 非常勤 6 人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1・2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費: 22,000 円 暖房費(11~4月): 6,000円
敷 金	有 (32000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無 ()	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円 円		

(4) 利用者の概要 (3月 7日現在)

利用者人数	16 名	男性 5 名	女性 11 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名
要介護3	7 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78 歳	最低 65 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会小樽病院・三ツ山病院・小樽第二病院・石橋病院・なつい内科・おきつ歯科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「幸」は小樽駅から車で約8分、バス停のすぐ前にあり、緑のある静かな環境の住宅街に位置している。建物は2階建ての2ユニットで、周囲には広い畑があり、利用者は野菜作りや収穫を楽しんでいる。運営者は精神科の看護師としての長い経験を持ち、利用者の安心と安全を保障するために、平成18年3月にホームを開設した。早期の対応で心身の健康面に配慮し、ホーム長と理念の実現に真摯に取り組んでいる。ホーム周囲の坂道を散歩したり、多彩な心身の訓練法やレクを取り入れて、活力のある生活環境を提供している。開設2年目になり、理念の共有化を図り、管理者と職員とが一緒になってホームづくりを進めていく体制に期待ができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回は、初回のサービス評価で、話し合いはしているが改善への取り組みはない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、初めての取り組みなので、毎日、申し送りの中で「評価の項目」を取り上げ、管理者を中心にテーマごとに話し合い、それらをまとめた。職員は評価の意義を理解しているが、項目で求められている内容が抽象的で難しいとも感じている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、地域との関り方へのアドバイスやホームへの協力姿勢もあるので、有効に活用できるように考えているところである。小樽市の担当者に食材の取扱いや医療的な対応で、不定期であるが訪問や電話で相談している。市が主催するグループホーム管理者会の研修や交流会には、管理者が中心に参加し情報を得ている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「グループホーム幸便り」を年に1回発行し、毎月の行事や暮らしを、写真で分かりやすく報告している。毎月の支払い時の機会を捉え、利用者の状態を家族と直接話し合うことを大切にしている。訪問時に必ず声をかけ、意見・要望についてはミーティングで話し合い対応しているが、家族が気兼ねなく意見を表明できるように、〇×式記載のアンケートも考えているところである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会が計画している「地域連絡・交流年間計画」の行事に参加している。「小樽雪あかりの路」では、ホームの玄関前にろうそくを並べて地域のイベントを共に楽しんでいる。小学校の「学習発表会」に行ったり、ホームの行事には地域の人も参加している。また、町内会を通じて認知症を理解してもらう説明会を予定しており、住民の交流や貢献など、積極的に取り組まれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しく、愉快地に、朗らかに」との、理念を掲げ、その実現に、利用者の健康と身体機能の向上を主眼としている。理念の中に地域性の内容が表明されていないので見直しを考えているところである。	○	町内会の理解があり、地域に密着した参加活動も行なわれているので、住民との関係性についての表現を加えた理念づくりに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の基本的な方針をパンフレットに載せ、その内容を分かりやすい文言にして玄関に掲示してある。申し送り時に、毎日の散歩やレクリエーションの継続について話し合い、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会が計画している「地域連絡・交流年間計画」の行事に参加している。「小樽雪あかりの路」では、ホームの玄関前にろうそくを並べ、地域のイベントを共に楽しんでいる。近くにある小学校の「学習発表会」に行ったり、ホームの行事には地域の人も参加しており、ボランティアも受け入れている。	○	「老人会」の温泉行事に参加し、カラオケなどに参加させたい意向もあるので住民との積極的な交流に期待したい。また、認知症の理解のため、町内会を通じて説明会（キャラバンメイト）を準備中とのことなので地域への貢献も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、初めての取り組みなので、毎日、申し送りの中で「項目」を取り上げ、管理者を中心にテーマごとに話し合い、それらをまとめた。職員は評価の意義を理解しているが、項目で求められている内容が抽象的で難しいとも感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、メンバーの中には、源町と清水町の会長2名が参加し、地域との関わりへのアドバイスやホームへの協力もある。今後は運営推進会議の意義を再確認し、有効に活用できるように考えているところである。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小樽市の担当者に食材の取扱いや医療的な対応など、不定期であるが出かけたり、電話をしたりして相談している。生活保護担当者の訪問はある。市が主催する研修会や交流会には管理者が中心に参加し情報を得ている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホーム幸便り」を年に1回発行し、毎月の行事や暮らしなど、写真を中心に分かりやすく報告している。毎月の支払い時の機会を捉え、利用者の状態を家族と直接話し合うことを大切にしている。金銭管理は相互間でチェックし領収書を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの意見や苦情の相談窓口を設置し、外部にも苦情等を表明できるように窓口を紹介しており、市などの連携で苦情処理の取扱いに対応している。家族の訪問時に必ず声をかけ、意見・要望などには、ミーティングで話し合い対応している。	○	家族が気兼ねなく意見などを表明できるように、○×式記載のアンケートを帰り際にさりげなく箱に入れるような工夫も考えたことなので、取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ヶ月の試用期間に相互に確かめ合う中で辞める職員も多い。利用者には馴染みのある職員は落ち着いている。家族には訪問時に職員の交代を伝え、本人には職員の離職を数日前に説明し、さりげなく話しかけて淋しい思いに配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、不定期ではあるが主に小樽市主催の研修に参加している。「身体拘束」「認知症の基本的な考え方」「認知症介護実践研修」など、業務に必要な研修は会社の費用扱いになっている。外部で受講した内容を、内部研修として報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市のグループホーム連絡協議会が主催する講演会、研修会に積極的に参加している。開設当初には、ホーム長、管理者、職員とが頻繁に、同業者を見学し講演会にも参加して、質の向上に努めた。今年も見学など、同業者との交流やサービスの質に反映させたいと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず見学をすすめ、本人の納得が得られるように、体験入居や日帰り体験の機会をつくっている。入居後、特に健康面と心身の状態を観察し、新しい環境でなじみの関係を作るために、関わりを多く持つように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農業を趣味としている利用者が多いので、トマトの芽かき、冬期に向けての大根の保存の仕方、野菜づくりや観葉植物の育て方などを教わっている。夕食後、管理者や職員は、不安や悩み事がある場合、時間に関係なく傾聴し、会話をしながら共にゆったりと過ごすように努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ホーム生活での意向を本人に聞き、また日頃の会話からも思いを把握している。病気への心配が多いので、安心、安全の希望に沿い、早期に対応できるように家族と一緒に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアの中での課題や、利用者、家族の要望を聴き、健康管理に重点を置いた介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族の面会時に、介護計画作成担当者が説明を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。身体の変化に応じて、介護計画を見直し、その現状に即した新たな介護計画を作成し、その都度家族に説明を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在24時間の医療連携体制は取っていないが、準備を進めている。利用者や家族の状況に応じ、通院介助を柔軟に対応している。外部からの介護関係の相談があれば、随時対応を行っている。現在ショートステイの受け入れの準備を進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医への受診も、家族と相談して柔軟に対応している。本人のかかりつけ医を中心とし、専門病院で早期に受診し、日頃の健康管理に配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制整備に向けて、重度化や終末期に関する書類を準備しており、入所時に家族と方針を共有している。事業所では、経口摂取ができる状態まで、柔軟に対応する方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝の申し送りやミーティング時に、言葉かけや対応について話し合い、職員全員で共有していると共に、気付いた時は、その場で管理者が指導を行うようにしている。個人記録は、他の人の目に触れないところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、パワーリハビリのため、個々の体調や状況に応じてラジオ体操をしているが、レクリエーションは利用者の希望を聞いて、楽しく過ごせるようにしている。花の好きな利用者は、お花を飾ったり、好きなテレビを見たり、思い思いの生活を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は取り寄せているが、味付けは出来る範囲で利用者の好みに応じて調理をしている。ひなまつりなど、行事の時は、事業所独自の献立で食事を楽しんでいる。米とぎや茶碗洗い、もやしの芽取りなど、利用者にあった仕事をする事で喜びが持てるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、木は女性、火、金は男性と週2回の午前中に体調を見ながら入浴を行っている。一人でも入浴を希望する利用者がいれば、予定日以外でも、入浴は可能になっている。入浴拒否者に対しては、職員が交代で声かけをする事により、スムーズに入浴ができています。		
。					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の世話や畑仕事、裁縫など好きな事をして楽しみを持って過ごせるように配慮している。地域のお祭りや温泉、銭湯に行ったり、ドライブで手宮公園やお花見に出かけて楽しく、気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、庭や住宅の周囲を散歩したり、利用者の希望を聞いて、駅前付近やスーパーに買い物に出かけたり、柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは、建物が幹線道路に面しているため、安全面を考え、リモコンで開けるようになっている。利用者が外出しそうな時は、さりげなく声かけをし、本人が外出したい場合は一緒について外出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域性もあり、現在は近隣に協力を働きかけられない状況であるが、年1回消防署の指導のもと、防災避難訓練を行っている。日中、夜間それぞれの、災害時のマニュアルを作成して安全面に配慮している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録し、不足している利用者には、個々に応じて柔軟に対応している。食事は、栄養士付の業者と提携し、1日1600カロリーの栄養バランスの取れた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い窓に囲まれた明るい居間は、ゆったりと落ち着いた雰囲気過ごすことができるようになっている。台所の食事の準備やご飯の炊ける匂いなど、生活感を取り入れる工夫をしている。金魚の水槽や季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気とともに、季節感が感じられるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた小物や写真、仏壇などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。各居室内に湿度計を置き、濡らしたバスタオルで湿度を保ち、適切な湿度が常時保たれるようにチェックして健康面にも配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。